

中学生徒会から高校自治会に連携する指導と実践

筑波大学附属駒場中・高等学校 生徒部
市川道和・小澤富士男・篠塚明彦・根本節子
八宮孝夫・濱本悟志・平田知之

中学生徒会から高校自治会に連携する指導と実践

筑波大学附属駒場中・高等学校 生徒部

市川道和・小澤富士男・篠塚明彦・根本節子
八宮孝夫・濱本悟志・平田知之

要約

本校では、各種の行事が盛んで、各行事での生徒たちの委員会活動には目を見張るものもある。しかし、こうした委員会活動を統括すべき、生徒自治会役員会の活動は低調であり、全体の生徒たちの役員会に対する関心も低いものであった。このような状況にあつて、近年中学の生徒会活動が少しずつ活性化し始めた。そこで、生徒部としてはこうした中学生徒会の活性化の動きを高校の自治会活動につなげるための取り組みに着手し始めた。その取り組みのなかで柱となったのが、OB会と連携しながらの自治会主催講演会の企画であった。本稿では、自治会主催講演会への取り組みを中心にしながら、高校自治会活動活性化に向けた取り組みについての途中経過を報告したい。

キーワード : 中学から高校へ 活動拠点としての自治会室 プロジェクトX

1. はじめに

本校は、音楽祭、体育祭、文化祭などの学校行事が活発な学校といえるであろう。各行事では、それぞれ音楽祭実行委員会、体育祭実行委員会、文化祭実行委員会といった生徒の委員会が指導的な役割を果たし、運営がなされている。近年、生徒の力量が少しずつ低下し、教員による丁寧な実行委員会指導の必要性が生じていることは否めないが、それでもまだ十分に生徒主体の行事運営がなされていることは間違いないであろう。しかし、それに比して、本来は各実行委員会を統括し、主導的な役割を果たすべき中学生徒会本部役員会や高校自治会本部役員会の活動が低調となっていた。行事は盛んだが、生徒会活動、自治会活動は不活発というのが本校の現状であった。生徒会本部役員会や自治会本部役員会の主たる役目は、各クラブ・委員会に予算配分を滞りなく行うことぐらいとなっており、事実高校生の中には、自治会本部役員会の役割を予算配分を行うことだけであると思っていた生徒もいた程である。生徒全体も各実行委員会の活動を重視し、役員会への意識も低下していたのである。特に高校の自治会活動に関して、生徒全体の意識は低い状態にあるように思える。

このような中、明確な原因ははっきりしてはいない

が、3～4年ほど前から少しずつ状況の変化がみられ始めた。まず中学の生徒会活動の中から、少しずつではあるが生徒の主体的な動きが見え始めたのである。予算や決算の審議における真剣で活発な討論、役員選挙における熱心な質疑など生徒総会が活性化され始めた。しかし、そうした中学生徒会の動きが必ずしも高校自治会の活動には結びついてはいなかった。自治会総会は形式的なものであり、予算や決算の審議も低調なままであった。第一、中学生徒会役員の経験者が高校では役員に立候補しようとしなかった。それほどまでに高校の自治会役員会の活動には魅力がないものなのであろうか。中学での生徒会活動活性化の動きをどうにか高校につなげることは出来ないものかと考えていた。

2. 閉まったままの自治会室

どこの学校にもあるように、本校にも生徒会室、自治会室があり、そこが生徒会活動や自治会活動の拠点となるはずであった。ところが、普段の時期は自治会室には役員すらもほとんどいることがない状態であった。役員同士の打ち合わせが必要などときには、どこかのホームルームの片隅で話をし、顧問との話が必要などときには教員の準備室で話をすること

が多かったようである。例外的にこの自治会室に頻繁に人の出入りが行われるのは年度当初の予算折衝の時期くらいであった。また役員会の打ち合わせが比較的頻繁に行われるのもこの時期くらいであった。それ以外の時には、この部屋で定例の打ち合わせを行うこともなく、必要に応じて役員が誰かが時々出入りする程度であり、ほとんど鍵がかけられた状態であった。当然、自治会室は雑然とした状態となり、何年も前の予算関連の資料などプリント類がテーブルといわず、床といわず散乱しており、自治会活動の拠点とはほど遠い姿であった。それに比べて、自治会室の並びにある文化祭実行委員会本部はよく活用されていた。このような自治会室の状況や文化祭実行委員会本部との違いは、ますます生徒たちに自治会に対する意識を希薄にさせることを助長していたことは明らかである。

自治会室とは本来、生徒による自治活動の拠点でなくてはならないと思う。教員が使う会議室や教員の準備室において様々な相談等を行えば、当然教員の都合が優先される。教員のペースで話が進められるようでは自治意識が高まることなどあり得ないはずである。

自治会活動を活性化していこうとすると、まずこの自治会室の状況から変えていかなければならなかった。そこで昨年の4月、最初に取り組んだのが自治会室の清掃であった。当時の自治会役員の生徒たちはあまり乗り気ではなかったが渋々ながら部屋を片付け、どうにか自治会室で活動が出来る状態になった。

次の段階として考えたことは、この部屋に役員たちが集まる状況をどのようにして作り出してゆけばよいのかということであった。会長をはじめ役員と話をするときは、教員の準備室や生徒相談室（生徒部教員の会議が行われる場所）などを使わずに、面倒でも教師のほうが自治会室に赴き、生徒にもそこに集まってもらうよう心がけた。役員を集める放送も、なるべく教師の声でなく生徒の声で流すようにした。——これは、全校生徒に対して、教師によって役員会が集められているという印象を持たせたくなかったからであるが、効果の程は不明である。——自治会室で様々な打ち合わせをするようになったところで、定例の会議を開くことを教員の側から持ちかけた。実は、それまで自治会役員の定例の会議というものが設定されていなかった。以前には定例会が存在していたようだが、いつしか行われなくなってしまったようである。しかし、この定例会の提案は生徒たちの抵抗の前に実現しなかった。仕方なく、夏休みの最後に行われる「東京地区国立大学附属高等学校紹介フォーラム」

の準備に関連した打ち合わせと称して、1～2週間に1回程度昼休みに生徒に自治会室に集まってもらいそこで会議をおこなった。いわば「既成事実」を積み上げたのである。ある程度定期的に会議を積み重ねるようになると、生徒たちも定例会の必要性を感じたようで、1学期の終わり頃には、毎週木曜日の昼休みに全役員が自治会室に集まって会議が行われるようになっていた。

3. 自治会役員の変更

本校の自治会本部役員の任期は半年となっている。毎年5月と11月に選挙が行われ、役員が入れ替わっている。もっとも、再任は妨げられるものではないので二期務めるものが多い。昨年度前期の役員は、高校2年生が4名、高校1年生が1名の合計5名であった。なぜか本校の場合には、特に規定があるわけでもないのだが、この前期の任期を終えると2年生は引退し、1年生ばかりの役員会となることが通例となっていた。そのため、11月に選挙され、12月から任期となる後期の役員会の初仕事が決算作業ということになっていた。04年度前期の2年生の役員たちも先輩たちと同じように、11月末をもって任期を終えるつもりでいた。そのため、夏休みの「学校紹介フォーラム」の取り組みが終わってしまうと、もうほとんど仕事を終えたつもりになっていた。

このころ、会長と財務担当の役員に対して、もう一期務めてくれないかと説得を試みた。というのも、2年生が全員引退してしまうと、継続して役員を務めるのはたった一人の1年ということになってしまう。仕事の継続性を考えると何名かは残ってほしかった。とくに、予算関連のことは、ほとんど財務担当と会長が担っており、彼ら無しで決算というのはいささか不安であった。こうした事情を説明し、残留を促してみた。こちら側の働きかけに対して、二人は理解を示してくれた。だが、理解を示すことと、実際に役員を務めることとは別問題であり、結局2年生の役員は全員引退していった。11月の選挙は、当初1名の立候補者（会長候補）しか出ないという危機的状況であったが、会長候補者やこちらからの必死の働きかけの結果、会長候補者を含む5名の候補者が出そろい、全員が無事信任されて、どうにか04年度後期の役員会がスタートした。

役員候補者が出るまでに大いに難航した背景には、やはり生徒たちの中にある自治会に対する意識、イ

メージが大きく影響していたのは明らかである。予算編成をすれば役員会の仕事は終わり、自治会などなくても特別委員会があれば文化祭などそれぞれの行事は無事に成し遂げることはできる。生徒たちの間では、自治会の存在意義や興味関心が稀薄であった。自治会活動への生徒たちの意識を変えてゆくためには、予算編成だけでなく、彼らが主体的に取り組むことができる何かが必要であった。

4. やりがいのある取り組みを

以前より、OB会の人的財産を現役の生徒に生かすことは出来ないかという話が自治会担当のほうに寄せられていた。このことについて、04年度前期の役員たちと少し相談を始めていた。現在、本校はSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定をうけ、様々な取り組みを行っている。その中で、様々な方を講師に招いて講演会が何回も行われている。こうした講演会は、当然のことながら、教員がすべてテーマを設定し、講師の人選を行っている。こうした講演会に刺激を受けたようで、役員と相談する中で、自分たち生徒が、聞いてみたいテーマや講師を選ぶことは出来ないかというような声が出てきた。実際どのような形で実現できるかは解らないが、とにかく生徒の声を生かした講演会の企画の可能性を模索してみることにした。そこで、役員会の中だけでは到底テーマ設定や人選は難しいので、簡単なアンケートをとることにした。高校1・2年生を対象に、もし自分たちで講演会の講師やテーマを決められるとしたらどのような人やテーマについて話を聞きたいか尋ねた。アンケートをとったのは、夏休み前であったが、「学校紹介フォーラム」の仕事などがあり、集計が出たのは夏休みに入ってからであった。アンケートの結果、生徒たちの間では、マスコミ関係者や会社経営者の方にその仕事の中身や裏話などを伺ってみたいという希望が強いことが解った。実は、昨年度前期の役員たちに残ってほしかった大きな理由の一つには、この企画への取り組みということもあった。

生徒のニーズは一応解った。しかし、この後どのような形で生徒の要望を実現するか、その具体的な姿がなかなか見えてこなかった。どのような方をお呼びして話していただくのが良いのか。なかなか人選が難しかった。結局、具体的な取り組みは後期の役員会に委ねることになった。

5. 自治会活動活性化“プロジェクトX”

人選について悩んだ。何しろ自治会が初めて取り組む独自の企画である。大失敗をしてしまえばますます自治会役員のやる気を失わせるし、生徒たちの自治会への意識も変革できないと考えた。結局、自治会の中では人選までは出来そうにもないので、OB会に相談することになった。今回は、マスコミ関係者に絞って講師を人選していただくことにした。幸いなことに、たいへん良い方が候補者としてあがった。

候補者として推薦された金浜理卯氏は、当時NHKの人気番組「プロジェクトX」のデスクを務めておられ、しかも本校在学中には自治会長をしており、自治会が企画する講演会の講師としては最適の人選であった。

自治会主催講演会に向けて動き出した。しかし、実際のところは陰でOB会にお膳立てをしてもらった。講師の金浜氏にも事前に連絡をしてもらい、生徒が自主的に取り組んでいるという形をとりたいたいことを伝えていただき、協力を依頼してもらった。元自治会長ということもあり、金浜氏には、こちら側の意図を十分に汲んでいただくことができた。

OB会のお膳立てのことや金浜氏への事前の連絡のことは生徒には伏せ、あくまで自治会役員が自分たちで頑張るのだというように生徒には説明し、準備を進めた。

講演会の日程は3月16日ということで決まり、3学期にはそこに向けた準備があわただしく進んだ。全校生徒にどのように働きかけるか、内容はどのようにするのか当日や事前の役員たちの役割分担はどのようにしていくのかなどなど、話し合うべきことは沢山あり、にわかには役員会の活動が活気を帯びてきた。ポスター作り一つをとっても、よりインパクトのあるものを作り、一人でも多くの生徒を呼びたいと熱心に意見を交わし、取り組んでいった。自治会独自の企画、初めての挑戦であり、何とか成功させたいという気持ちが彼らを動かしていることが伝わってきた。

3月に入って、講師と生徒たちの直接の打ち合わせを持つことになった。金浜氏の計らいで、打ち合わせ場所は渋谷のNHK放送センターの一室で行われることになった。しかも、「プロジェクトX」の収録の日を選び、そのリハーサルまで見学させてもらうことになった。生徒たちのやる気はますます高ま

った。これは余談であるが、2時間ほど打ち合わせをし、テレビ局の裏話なども伺った後、予定通りにスタジオのリハーサルの様子を見学させてもらうことが出来た。決められた時間内に無駄なく手際よく行われるリハーサルの進行に、生徒たちは感心しきりであった。生徒たちは、こうしたリハーサルの様子は文化祭などにも参考になる、何とか他の生徒にも還元できないかなどと話していた。

3月16日、講演会の当日をむかえた。当日は、教員が表にできることは一切なく、司会進行から話の途中で使用されるビデオの操作や記録まで、すべて生徒自身の手でなされた。会場には200人近くの生徒が集まり、ほぼ満員であった。内容も興味深いものとなり講演は成功裏に無事終わることが出来た。終わったあと、役員の子供たちの表情には達成感が見られた。一人の子供が、「自治会の役員になってよかった」とポツリとつぶやいたのはたいへん印象的であった。この企画をやり遂げたことは、明らかに役員の子供たちの自信につながっていったのである。

6. 2005年度に入って

毎年4月のはじめには、自治会主催で高校1年生（中学からの連絡進学者も含む全員）を対象に新入生オリエンテーションが実施されている。これは主として部活動・同好会の紹介に当てられているものである。毎年、自治会役員会の紹介の時間もあるが、それは部活動紹介の「おまけ」のような存在であった。しかし、05年度の自治会役員会紹介は、丁寧な紹介映像を作製し、持ち時間をオーバーするほど一生懸命のものであった。紹介の中で、自治会長は、前年度における自分たちの取り組みを自信をもって熱心に説明していた。また、あわせて5月に行われる役員選挙への積極的な立候補を呼びかけた。さらに、4月と5月に発行された“ACE”（自治会広報誌）では、自治会企画の小特集を組むなど“読まれる紙面”の工夫をした。これに対しては生徒全体の評判や教員の評判も比較的良好であった。こうした取り組みが功を奏したのか、5月の役員選挙では、高校1年生から4名の立候補者があった。昨年度から引き続きの高校2年生の5名とあわせて、合計9名という立候補者がそろった。全員が信任され、久しぶりに定員をほぼ充足した自治会役員会となったのである。但し、気にかかる点は、高校1年生の役員の多くが、高校からの入学者という点である。相変わらず中学生徒会役員の経験者は、他の委員

会などへと移っていった。新たに高校から入学したものがやる気を持って立候補することは良いことであるが、これに加えて中学での経験者が多く入り、中学での「良い流れ」を持ち込んでくれるとより活性化するのではないだろうかと考えている。

5月に発足した新役員会は、毎週定例の会議をしっかりと持てるようになり、必要に応じて臨時の会議を何度も開いていた。1学期における彼らの取り組みの中心は、「学校紹介フォーラム」であったが、それ以外にも文化祭に役員会として参加することを検討するなど、従来とは異なる独自の動きにも取り組もうとしていた。実際には、クラスやクラブでの多忙やなかなかおもしろい企画が考えつかないなどの理由で、文化祭企画は断念することになったが、それでも独自企画の可能性を追求し、参加申し込み締め切りぎりぎりまで検討はしていた。

2学期に入り文化祭もあって自治会全体としての動きはやや停滞気味になってしまった。しかしそのような状況のなかで、役員会は今年度の自治会主催企画に取り組み始めている。昨年の自治会主催企画に関していえば、実際のところは、OB会に陰で大いに依存した形で成功を納めることが出来たというものであった。しかし、いつまでもそのような形では自治会役員会の本当の力量は向上しないし、自治会活動の活性化にはなっていない。指導する側としては、どのように指導すればよいかたいへんに悩ましいところである。

自治会活動に関しては多くの課題を抱えている。その第一歩としての役員会活動の活性化と生徒の役員会への意識変革に取り組んでいる。多少は効果が現れているようにも思える。しかし、自治会活動の基礎であるHR活動、HRと役員会を結ぶ代議員会の役割、生徒総会に対する生徒の関心の低さ、役員会と各種委員会との関わりなど課題は山積されている。中学での「良い流れ」も生かしつつ、これらの課題にどのように取り組んでいくべきであろうか。

新年度最初のA・C・E 56期歓迎号発行

A・C・E

第2号

56期新入生
歓迎号!

平成17年
4月25日

発行: 役員会
高: 校

56期の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学式が4月9日、早いもので4月も終わりに近づいていきます。既に授業も本格的に始まり、新しい授業、新しい先生にもそろそろ慣れてきたのではないのでしょうか。

さて、今日お配りするこのA・C・Eなる印刷物はいつたい何ぞやと思う方も多いでしょうが、これは自治会の広報紙で、自治会役員会(この間部活動オリエンテーション)が作成して運中ですが、発行は不定期ですが、自治会長の公約が「A・C・Eを半期(11月・5月)に3回発行する」というものなので、5月まであと1枚は必ず発行されるでしょう。

A・C・Eの記事は総務委員が全員で書いています。みんなが書いて原稿を編集(今期は自治会長がやっています)がこのように1枚1枚に取まるように調整して、皆さんにお配りしているわけです。

ええ、まあ、正直言ってこれだけの紙面を埋めるだけのネタを思いつくのはキツイです。ですので、これを読んだみなさんも「こんなネタで記事書いてくれ」

ACE記事のネタ募集中!!!

とか、そういう要望がありまして是非役員会のごりまでお願いします。編集係としてはそれが非常にうれしいことなのです!!

何かある、って人は自治会室(地理室の真上)、一階「中園」というエリアのどこか)の前にあるビジョンボックスにそれらしい用紙を入れておこうと思うので、そこに書いて、同じ場所に入れてくれると、ネタ不足にあえいでいる時期ならば編集係は90%ぐらいの確率で採用するでしょう。ホントに、ですから、ネタも随時お願います。

さてさて、今回は今年度からいらつしやうた柿原真校長先生からも寄稿いただき、新年度にふさわしい紙面になったと思っております。その他総務委員の書いた体験記など、内容盛りだくさんです。家に帰るまでは捨てず、に、ちゃんと最後まで読んでください。

それでは、
(編集担当)

新校長柿原先生のご専門を語る

本年度から、本校に新しい校長先生、柿原真先生が着任されました。我々は校長先生という側面から見ることができませんが、柿原先生は微生物、特にカビやキノコの研究の第一人者で、日本菌学会の副会長もなされています。そんな意外な側面を持つ柿原先生に、着任に際する心境と、も、ご自分のご専門についても語っていただきます。

私は、今年度から本校の校長として着任することになりました。これまで、筑波大学にいましたので、皆さんのような、若々しい高校生、中学生と学校生活を送ることは初めてです。このため、これから、戸惑うことも多いかも知れませんが、皆さんの勉学や学校生活の目標が達成できるよう、皆さんと一緒に努力して行きたいと思っています。

私の所属は筑波大学の生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻で、専門としていのは、微生物の分類、生態で、そのなかでもカビやキノコの仲間について、研究を行っています。カビやキノコは、学問的には菌類と呼ばれていますが、菌類は、世界中のあらゆるところに分布し、地球生態系、特に陸域での生態系で分解者として物質循環に大変重要な役割を担っています。特に、落葉などをほじめとる動物圏生物の分解においては、不可欠な生物群で、最近ではカビがなくなると、自然の循環が止まり生態系が維持できないことが分かっています。また、菌類は、動物圏などに寄生し、その病原体となるものがある一方、それと共生生活を営むものが多数あります。植物、動物などとも共生し、それらの進化に大きく関わってきたことなども、最近、明らかになってきています。さらに、カビによって個体間のネットワークが作られる、カビを駆逐して栄養供給が行われ、相互の成長を支えられているため、生態系のバランスが維持されているとまで言われるようになってきています。

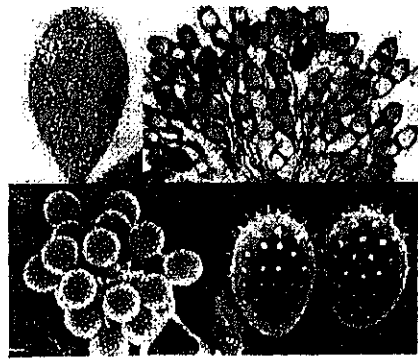
これまで、菌類は、人間にとって動植物の腐敗、食品の腐敗、木材の腐朽、製品の劣化などの害作用をもたらす生物であったため、私たちの生活から見ると、嫌がられる存在でありましたが、一方で、きのこのように直接食用になるもの、発酵食品、抗生物質や工業原料など有用物質の生産に利用されるものなど、有益なものも多数知られています。また、酵母やアカパンカビ、コウジカビのように研究材料として利用され、遺伝学、生理学、バイ

オテクノロジーなどの発展に大きく貢献したのもあります。このような菌類は、一般的には、目には見えない菌糸と呼ばれる微小な糸状の栄養体で成長し、胞子を形成して分散する生物です。形態こそ比較的単純ですが、その生態や機能などは極めて多様であり、植物や動物とは大きく異なります。特に、動物圏と異なるのは、栄養体の中に、遺伝子の異なる核が多数存在し、しかも、その核が、生命力が極めて旺盛で、類の大きな特徴で、菌類が、異質な核を持つ多核生物がどのようして遺伝子の発現をして、その生理的機能を維持しているのか、どのような機構で植物や動物に寄生、共生するかなど、多くのことが解明されていません。また、地球上には、150万種の菌類が存在すると推定されていますが、種名がつけられているのは僅か?万種に過ぎません。また、最近の遺伝子を用いた系統解析では、菌類は、原生動物から進化し、系統的には昆虫に近縁であるとも言われています。このように菌類は、

人間の間では認識できず、みんなので、私達は、あまり気がつきませんが、謎を秘めた不思議な生物であると思います。私は、このような菌類のなかでも、植物やその生育環境に係わる菌類について、世界各地から、畜生・共生菌類の標本や菌株を収集し、形態学のおよび分子系統的解析を行い、その特徴や分類・系統学的位置付けを明らかにすること、また、野外調査や植物への接種試験などにより、生活環や寄生機能を解明することを目標として仕事を進めています(写真)。

最後に、本校に着任して、本校は、挑戦し、創造し、貢献する生き方を目標としていることを知りました。このことは、いろいろな問題に、果敢に挑戦し、新たな秩序を作り出し、社会的にも、国際的にも貢献

柿原先生、お忙しい中ご寄稿ありがとうございます。



植物上に形成された寄生菌の胞子堆と胞子

お知らせ

▼本号発行直後に、「自治会選挙特別号」と題して自治会選挙に関する様々なことを特集します。立候補をご検討の方必見!

▼役員会の定例会は、今年度も引き続き毎週木曜日昼休みに行われています。自治会に質問・要望などがある方は、このときに来てくれれば丁寧に回答いたします。場所は自治会室です。

▼最近、自治会への提出物の遅れ・出し忘れが見られます。提出がない場合、各団体が不利な状況に立たされる場合も多々あります。そのようなことを防ぐためにも、各団体においては提出期限・提出方法には十分に注意してください。

▼自治会役員会では、生徒用連絡板(1の1HRと1の2HRの間のホール)にありません。たまたび重要な連絡事項をかいていませう。この掲示板は必ずチェックするようにしましょう。

▼ACE紙面に部活動・同好会の広告を載せることができます。詳しくはACE編集部の2年1組開口(意)のところまで。

同好会の更新

来る5月6日より13日までの1週間、新規同好会の設立受付と、既存同好会の更新を行っていきます。登録更新のない同好会については存在しないものと見なされますので、注意してください。

記入内容ですが、会長名・顧問名と顧問印、そして部員全員の使命とクラス、そして1年間の活動計画です。新規設立の場合には設立目的も記入してもらいます。

さて、では新規同好会を設立したい場合にはどうするか。今回はそのことについて書いていきたいと思います。

意外と知らない方も多く、2名以上の委員と顧問が存在して初めて同好会は成立します。この際、代議員会、総会での審議は必要ありません。そういう面ではお手軽に作れる、と言ったことも知れませんが、

ただし、同好会は部と違い予算が出ないので、必要経費はすべて会員持ちです。その点に留意して注意が必要ですが、また、会員が1名以下になった場合は同好会が廃止されることもあり得ます。

登録の結果明らかになった同好会一覧はACE第4号に掲載します。ご参考まで。

3月16日に行われた金浜理卯氏の講演会。65期生が必修、と言ったことで役員会も席を大幅に増やして講演会に臨みましたが、おかげさまで必修ではなかった他の学年からも多くのご参加をいただき、会場を満員にする事ができました。

さて、その講演会に先立って講演会の打ち合わせがありました。我々総務委員がNHK本社まで行きまして、まあ、いろいろ面白い体験があったわけで、そんなことを自治会主催の講演会特集として、2人の総務委員に違った角度から書いてもらいました。今回は1人目、次号に2人目の体験記を掲載する予定です。

では、今回は第一回目、総務委員の1人、誰かさんの体験記です。

3月16日、プロジェクトXのディレクターである金浜理卯さんによる講演が自治会主催で行われた。その「自治会主催」で、「これ重要」のことはその講演の6日前、3月10日にさかのぼる。榎本先生と自治会委員の俺たちはAM10:00、渋谷駅ハチ公前に集結した。何のためかというの

金浜さんと講演がついて、打ち合わせをNHK放送センターでするためだった。そして、これがなかなか楽しい。楽しかったわけなんだなあホント。

集合の後、ONBPIERのボスターがそこらじゅうに貼ってあった紙を歩くこと十数分、眼前に、

突如巨大なパラゴアンテナが何基も出現した。「ここかあ。宇宙人に向けて電波でメッセージを送る、とかいう用途で使われるりするもの。何言ってるんだって感じだろうけど、俺のイデオロギアに對するイメージってのはそんなモンだ。レーザー出したら、だめだめ。もうそこでの送り相手は宇宙人でもUFOでもない一般の視聴者であって、ついに俺たちは海老沢の番組の発信者の本拠地に来たんだ、とかあらためて思った。NHK放送センターで

自治会主催講演会特集!

さんにはもうホントすてきな人です。今思うとちゃんとした敬語うぬぬんが使えたか心配になったりするわけだ。午前中のお仕事も思ってたよりすつと楽しいものになった。そのいい人がふりやうで伝えられるのはやっぱNHKの食器屋屋敷を著ったコトコトかな。食べ物の恨みを忘れないうて言うけど、食べ物の恨んで俺は忘れられない。カレールームかっただけ。そしてその時に

言われた衝撃の一言「後でプロジェクトXのカメラリハーサルがある。見学しなさい。てっぺんです。あ、送っていいん

高橋の感動を抑えつつ、自動車をくぐり、NHKへ第一歩。小さな一歩だが俺にとっては大きな一歩。アーミストロングの名をアレンジすればこんな心境だったね。彼が本当に月へ行つたのは別として、

そしてお約束の時間に俺たちは金浜さんに出会った。案内されてたどり着いたのは小さな金庫室。これは結論を言ってしまう。金浜

突如巨大なパラゴアンテナが何基も出現した。「ここかあ。宇宙人に向けて電波でメッセージを送る、とかいう用途で使われるりするもの。何言ってるんだって感じだろうけど、俺のイデオロギアに對するイメージってのはそんなモンだ。レーザー出したら、だめだめ。もうそこでの送り相手は宇宙人でもUFOでもない一般の視聴者であって、ついに俺たちは海老沢の番組の発信者の本拠地に来たんだ、とかあらためて思った。NHK放送センターで

突如巨大なパラゴアンテナが何基も出現した。「ここかあ。宇宙人に向けて電波でメッセージを送る、とかいう用途で使われるりするもの。何言ってるんだって感じだろうけど、俺のイデオロギアに對するイメージってのはそんなモンだ。レーザー出したら、だめだめ。もうそこでの送り相手は宇宙人でもUFOでもない一般の視聴者であって、ついに俺たちは海老沢の番組の発信者の本拠地に来たんだ、とかあらためて思った。NHK放送センターで

某総務委員のNHK探訪記!

セットを見せられてから、カメラハマまでよいと時間があつて、俺たちは下のソファに腰掛けてしばらくそこで待機してことになったわけだ。二行こう。何せそこはNHKのスタジオ、楽屋裏下のも真ん中である。しかも俺は「経歴」の撮影。ならじつとこれいられるわけがない。こんな機会滅多にないもん。こへ来る間にも、タッキーっぽい人がいた。だと思つた。思つていたい。思わせろ。うん、見た。こうして俺と朝倉は、開いているドアがあればジロジロ、廊下をウロウロ、つて先駆者ハリー(古いかこの言葉。じやん、みたいな。こうしてチャンスを得た。うて、できれば経歴スタジオ付近で、スタジオの出入り口のところにテレビがのつた。そこには「経歴」の撮影のセットと榎本さんが映つていて、中でたまにメイクを直したりしていた。それを見ているのもまたおもしろくて、辺りに気を払いつつも画面をじつと見ていた。そんなウロウロも数分がたった。あと「経歴」の通路の向こうから背の高い(つて俺の背が低いんだ)男の人が、青いシャツにサンクラスをかけて出てきた。その人はスーツと横を通り過ぎて、外へへと行ってしまった。タッキーではなかった。だ、待た甲斐があつた。今通つた。な、朝倉、今通つた

セットの裏まで見せてもらえませんか。ああこれです。ばらしい先駆者を持った自治会委員の特権。☆かと思った。り。もらった。台本は自治会室に保管された。宝物として、密閉して無菌状態としたいんだけど、自治会室は俺だけののぞき放題。んでパラパラと台本に目を通して大まかな筋を見たら。なんだか早見のジャンプを眺んで早見のジャンプが無くなったような気分になった。4/6日放送。首都高速、東京五輪(の空中

作戦。この発行の時にもう終わっちゃってるけど。)

最近ライブドアについての話題が沸騰中だがその中でもライブドアがフジテレビを買収したのは比較的古い話である。だが、野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

最近ライブドアについての話題が沸騰中だがその中でもライブドアがフジテレビを買収したのは比較的古い話である。だが、野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

最近ライブドアについての話題が沸騰中だがその中でもライブドアがフジテレビを買収したのは比較的古い話である。だが、野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

コラム

最近ライブドアについての話題が沸騰中だがその中でもライブドアがフジテレビを買収したのは比較的古い話である。だが、野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

最近ライブドアについての話題が沸騰中だがその中でもライブドアがフジテレビを買収したのは比較的古い話である。だが、野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

最近ライブドアについての話題が沸騰中だがその中でもライブドアがフジテレビを買収したのは比較的古い話である。だが、野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

最近ライブドアについての話題が沸騰中だがその中でもライブドアがフジテレビを買収したのは比較的古い話である。だが、野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

最近ライブドアについての話題が沸騰中だがその中でもライブドアがフジテレビを買収したのは比較的古い話である。だが、野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

最近ライブドアについての話題が沸騰中だがその中でもライブドアがフジテレビを買収したのは比較的古い話である。だが、野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

次号予告

次号の発行予定日は5月2日、形勢測定の日です。今度は自治会選挙に向けて立候補者の募集が中心の記事になると思えます。では、次号予告を。

次号の発行予定日は5月2日、形勢測定の日です。今度は自治会選挙に向けて立候補者の募集が中心の記事になると思えます。では、次号予告を。

次号の発行予定日は5月2日、形勢測定の日です。今度は自治会選挙に向けて立候補者の募集が中心の記事になると思えます。では、次号予告を。

次号の発行予定日は5月2日、形勢測定の日です。今度は自治会選挙に向けて立候補者の募集が中心の記事になると思えます。では、次号予告を。

あの有名俳優を見た?

確かに堀江社長の本当のやりたいことはわからない。終始一貫してなくてただ目立ちたいだけという感じも受ける。しかし今堀江社長を止めるべきではないと思う。せつかく古い神から抜けたそうて非常に疑問があった。野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

確かに堀江社長の本当のやりたいことはわからない。終始一貫してなくてただ目立ちたいだけという感じも受ける。しかし今堀江社長を止めるべきではないと思う。せつかく古い神から抜けたそうて非常に疑問があった。野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

確かに堀江社長の本当のやりたいことはわからない。終始一貫してなくてただ目立ちたいだけという感じも受ける。しかし今堀江社長を止めるべきではないと思う。せつかく古い神から抜けたそうて非常に疑問があった。野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

確かに堀江社長の本当のやりたいことはわからない。終始一貫してなくてただ目立ちたいだけという感じも受ける。しかし今堀江社長を止めるべきではないと思う。せつかく古い神から抜けたそうて非常に疑問があった。野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

確かに堀江社長の本当のやりたいことはわからない。終始一貫してなくてただ目立ちたいだけという感じも受ける。しかし今堀江社長を止めるべきではないと思う。せつかく古い神から抜けたそうて非常に疑問があった。野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

確かに堀江社長の本当のやりたいことはわからない。終始一貫してなくてただ目立ちたいだけという感じも受ける。しかし今堀江社長を止めるべきではないと思う。せつかく古い神から抜けたそうて非常に疑問があった。野球に手を出した馬場にも手を出した。今度こそは、馬場、という感じだった。のって大杉達だよな?

5月14日 自治会選挙実施!

(編集担当: 会長)

来る5月14日、自治会選挙が行われます。既に公示は行われており、選挙管理委員会によって立候補の受付が行われています。
 (一) 存続の通り、選挙で選ばれるのは会長(役員1)、副会長(役員1)、総務委員(役員8)、議長(役員1)です。このうち、会長・議長は任期1年、副会長・総務委員は任期2年、議長は任期1年です。役員は任期満了後、自動的に再選挙となりません。総務委員については明確な人数に既定はありませんが、現会長としていま、大任を担う維持、またはそれ以上の人数が望ましいです。
 (二) 一応会号を持って平成16年度後期役員会発行のACEは「お仕舞い」と言うことになる予定です。そこで、次期役員をより多く募集し、次期役員会がより活発なものになることを願って、この号を発行するわけです。ということ、今号は選挙特集号、と言うことで役員会について、選挙についていろいろと書いていこうと思います。

さて、では選挙に立候補したい場合はどうすればいいのでしょうか? 選挙に出る場合には各クラスにいるはずの「選挙管理委員」なる役職の人に聞いてみて下さい。その人が立候補届け出用紙を持っていき、届け出用紙には立候補したい役職名(会長、副会長など)、自分の名前、そして所属を明記して書き添えます。「所属を明記して」というのは、選挙区を指定するに当たっての心境・立候補の理由・たまたまという理由を、自分自身で説明するわけですが、自己アピールなど、当選したいという意欲が見えるようなものなら何でも書いてかまいません。もし立候補したいんだけど書き方が... という人がいたら、お気軽に2-1の開口(窓)のところまで聞きに来て下さい。多分きちんと教えてくれるはずです。

会長1人 副会長1人

多くの人が立候補に当たってイヤだな、と思うのは演説ではないかと思えます。生徒総会が何だか全校生徒の前に立たされ、なにやら言わなければならない、確かにけっこうイヤです。
 しかしです! 会長以外の役員候補には演説が義務づけられていません。つまり、やらなくてもいいのです。自分は特に何も言わず、届け出用紙に書いた所属を明記して、それで判断してもらって、それで判断してもらって、と言うのも一つの手段だと思います。ですから、演説嫌いな人、前に立つのが苦手な人も是非どうぞ。
 さて、一通り演説が終われば質疑応答に移ります。質疑応答では立候補者に質問するわけですが、よほどのことを言わない、書かない限り質問は出ません。(それはそれでどうかと思うのですが)で、それが済むといよいよ投票に移ります。投票の結果は、翌日には1-2前のホールに掲示されているでしょう。そこでめでたく当選となった人は、すぐに新会長など行合

総務委員8人

ひとまず、立候補の流れについて説明しましたが、どうでしょうか? 立候補を考えてみませんか? 下の記事? 下の記事と内容が被るのですが、前期役員会が高2と高1が一緒に活動することによって、高1は高2の活動を見て、次期役員候補から自治会運営の自治会運営に役立てる、という重要な意味合いを持つています。ですから、その意義を達成するために、高1の人は是非とも立候補してほしいのです。最初は総務委員から、とかでも大丈夫なので、中学校で生徒会活動をやってきた人はもちろん大歓迎、やっていなかった人ももちろん大丈夫です。56期の人、是非立候補してみてもいいでしょうか?

議長1人 副議長1人

先ほど説明したように、前期は高1高2が一括になって活動する時期です。言うならば高1がある意味「見習い」の期間に当たるといってもいいかもしれません。後期になると高2は基本的に「隠居」して、高1が実質的な運営することになります。高2はまあ、目付役ですね。
 さて、前期というものは5月から11月頃までを指しますが、この中で大きなイベントと言えはやはり「学校フォーラム」の存在が挙げられるかと思えます。高1入生の中は中学生時代に見たことがあるかも知れませんが、「学校フォーラム」とは関東近郊の国立大学附属高校が生徒主催の学校説明をする、と言うイベントです。これは一応本校の代表としていくわけで、それ相応の準備が必要で、夏休みもそれに伴って書かなくてはなりません。また、毎週木曜日は定例

56期から55期から各役職を募集

立候補者あり!

自治会主催講演会特集!

金浜さんが語ってくれたこと ～講演会の概要～

前号で予告したとおり、3月16日に開かれた「NHKプロジェクトXデスク・本校34期生金浜理剛先

「社会の縦のつながりの大切さが分かるでしょう」というお言葉で象徴できます。先輩の話は分かりやすく、またどこどこかのユーモアが利いたとても聞きやすいものでした。

金浜先輩は元自治会長。在任中は毎日放課後、今の山形師倉庫にあったという印刷室でせっせと会報を刷って会員に配り、すぐに捨てられていたのを見て涙していたといきます。彼の

の部分は剣道部。先輩が高2の時に岡崎先生が赴任されたこと。当時まだ若かった先生とは互角の勝負をしたものだおしやっています。大学受験は東大を2度受けるものの失敗し、慶応大学(その後「テレビが好きだから」という理由でNHKに入り、4年間東京で過ごした後復讐例で4年間北海道で勤務し、帰京したころプロジェクトXの企画に出会ったそうです。

ちなみに当初は就職活動などの詳しいお話もいろいろ予定だったのですが、自分達の時代はバブル崩壊直前の一番いい時期で全く困らなかつたから今の学生には参考にならないだろう」とのこと。あらゆる意味で残念です(笑)プロジェクトXという番組の企画は最初からあったわけではありませんが、成功の法則」という別な番組企画があっ

たのです。内容は、偉業を成し遂げた歴史的人物に注目し、5つの観点から通信簿をつけるというものでした。しかしその話を耳にした海老沢会長(当時)が「何人にも通じるものはない。新しいものを始めるときに周りが提供してくれる人材は決してエース級の人物ではなく、例えばNHKなら番組内容を裁制沙汰になつた人間だとか、上司と仲の悪い人間だとかが集まってくる。事実、先輩は後者の



今回講演いただいた金浜さん

ンビニ」番組中であつたので、社会の常態なのかも知れませんが、とにかく、人が集まらない。こういう新しいものを始めるときに周りが提供してくれる人材は決してエース級の人物ではなく、例えばNHKなら番組内容を裁制沙汰になつた人間だとか、上司と仲の悪い人間だとかが集まってくる。事実、先輩は後者の

「コンビニ」の回で注目したのは、「キーワードの設定。昭和40年代後半、現在の国内小売業トップ2の売上の差を誇るセブンイレブンの出発は、三越やダイエーの時代に始まりました。リーダーは鈴木氏(現イトーヨーカ堂社長)と清水氏。やはり最初から周囲の協力は得られず、労組のタフネスエンターや自衛官上がり等の小売業人集団で事業を展開します。

セブンイレブンの開店にあたり名乗り上げたのが、山本氏。当時22歳。酒屋を改装、商品を仕入れ、かけた費用は借金で総額2200万円。しかし売れ行きはなかなか伸びない。そこで15人の親戚を呼び、迷わせたはならない」ということだけを考え、がむしやりに働き始めます。掃除をしたり、レジの両替をし

たり、当時は年に1回しかないので普通だった帳簿のチェックを毎日行つたこと。そんな中で皆は3つことに気づきます。それは売れる品物の種類と、売れる品物の品切れと、売れない品物の存在とです。そしてその解決に向けて具体的に動き出したのです。ここで大切なのは、15人の方々が皆「山本一家を守る」という決意重要だった。もしそこで売上額だけの利益だ

のという数字を追っていたら、成功した気がしない」とおっしゃっていることでも、この話に関連して、先輩はこんな話もしてくださいます。戦後初の国産旅客機「YS-11」の設計は、設計員たちの「上司をキヤフ」と言わせよう!という明確な目標が、浅間山荘事件での突入は、「警察されるのだから、助けよう!」という意識があつたから可能だったのだ、と。

このように、具体的な数値目標を置くのもいいが、それよりもメンバーが皆「そのためなら何でもやる!」と意識を同じ方向に向けられるような仕組みや方針が大事です。その設定が大きたときこそ、逆境を乗り越えるチャンスなのだと先輩は教えてくださいます。

「南極」の回では、西堀栄(本当は火火に栄)三郎さんというリーダーを通じて「良いリーダー像」に注目しました。サンフランシスコ講和条約直後、日本はまだ自信を回復していない時代の話でした。南極観測には全国民の注目が集まり、1000回以上は打つてやれ!という言葉を残しています。いずれ社会のリーダーとなるであろう筑駒生もそういう心意気を持ってほしい、と先輩は語られました。

最後に、ここまで華々た内容以外で印象に残ったテーマを2つ紹介します。1つ目は、「冒険と探険は違う」。

これも西堀氏の残した言葉です。冒険は、危険を冒すこと。それは当然失敗すれば死ぬことだつてあるかもしれない。しかし探険とは、危険を探すことである。それはとにかくまず行つて見るから始まり、その結果がどうであるかと言つて見て分かることは必ずその人の血肉になる、という。自分が今しようとしていること、または避けようとしていることは果たして冒険なのか探険なのか。常にその違いを見極めて行動選択をしていくことが、僕達の大きな成長を促すでしょう。

2つ目は、「プロジェクトXに出た人々は皆、陰で大変な努力をしている。金浜さんが直接語られたのは、毎日トレーニング/瞑想をすべし。一流心臓外科医の話と、ロープが結べないがために4度試験に落ち、朝から晩まで変革中も移動中でもロープ結びの練習を続けた。今では世界のレスキュー業界の権威となつてい

る方の話2つだけでした。しかしプロジェクトXに出た皆さんは確かに皆、努力をして、それでも逆境にぶつかつて失敗し、そこからさらに努力をして成功を勝ち取つた人々です。一旦失敗しても努力を続けること、自分だけではなく周りの仲間も努力に巻き込むこと、それができる人間こそが社会の牽引者となるのでしよう。

そんな気づきを与えてくれた、素晴らしい講演会でした。

(中絶)